

僕が始めて中学校へ発達障がい理解の訪問授業に行く事になった時。先生に「クラスメートに一番伝えるべきことは何か？」と質問したんです。その時の先生の返事はこうでした。『排除しないで』めっちゃくちゃ単純で、深い言葉だと思いませんか。今でも訪問授業に行くときに頭によぎるこの言葉。みんなが参加できるように、関われるようにするにはどうすればいいんだろう？それをクラスみんなが考えてもらえるような授業が出来てるのか？自問自答の毎日です（^ ^:）

久田

## 第 54 回『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

### 新しい環境への課題

では、高機能自閉症やアスペルガー症候群のある児童生徒が、新しい環境を迎える場合、どのようなことが課題になるのでしょうか。

前述の特徴的な症状のなかでも、強いこだわりは、新しい環境を迎えるうえで特に配慮しなければならない特徴であると思われます。高機能自閉症やアスペルガー症候群のある児童生徒は、これまでの学校生活で自分なりの手順や順番などを作り上げてきているのです。それは、安心して学校生活を過ごすために工夫してきた結果であると考えられます。しかし、生活環境が新しくなるということは、学校生活等に適応するために自分なりに作り上げてきた手順の再構築を意味するのです。つまり、自分なりの手順やルールなどをもう一度新しい環境に合わせて作り直さなければならないということなのです。

誰もが経験することだと思いますが、ある時を境に環境が変化し、手順や順番が新しくなると、その手順や順番に慣れるまでには時間が必要になります。そのような状況下でも、コミュニケーションすることや、対人関係を築くことが苦手であれば、人に手順を尋ねたり、援助を求めたりすることができるため、比較的容易に不安を取り除くことができるでしょう。また、その状況を想像し、シミュレーションすることができれば、解決できることもあるのではないのでしょうか。

しかし、周りの人との関係が築きにくいという点に、コミュニケーションも苦手な高機能自閉症やアスペルガー症候群のある児童生徒の場合、困ったことを解決するために、周囲の人に援助を求めることはとても困難なのです。また、新しい環境がどのような環境なのか想像もできにくいのです。それゆえ、不安がより大きくなるであろうことは容易に想像できるのではないのでしょうか。「困ったときには、誰に尋ねればいいのか？」「わかるように説明してもらえるのだろうか？」「どんなクラスで、どんな人がいるのだろうか？」「担任の先生には、理解してもらえるだろうか？」「どんな授業なのか？」「席はどこ？」「自分は受け入れられるのだろうか？」「周囲の音は、明るさは？」「カリキュラムは？」「テストは？」「留年はしないだろうか？」「トイレの場所は？」等、新しい環境への不安が次から次へと押し寄せてくるのです。高機能自閉症やアスペルガー症候群のある児童生徒にとって、新しい環境は、できることなら踏み入れたくない場所になっているということなのです。しかし、時間は常に流れています。その時々に応じた新しい環境を受け入れないまま生活することなどできはしないのです。では、どのような方法で、新しい環境への不安を取り除いていけばいいのでしょうか。

今回は、その不安を取り除く具体的な方法についていろいろ考えていくことにします。「大丈夫よ。」と私たちは簡単に声掛けをしてしまいます。しかし、具体的な手立てを提案しないまま大丈夫と繰り返しても、それは不安を取り除くことにはなりません。結局は自分一人で解決できるからと言われているのと同じだからです。子どもが困っているのであれば、大人には困っていることを解決できるように、導いていくことが求められるのです。

### 坂井聡先生の紹介

（プロフィール）

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

（著書）

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など